滞留水の貯蔵状況（2月17日時点）

東京電力ホールディングス株式会社

2022年2月24日

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量
- ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足

②1～4号機タンク貯蔵量
- ・淡水化装置による処理により，RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
- ・蒸発濃縮装置は全台停止中

③5，6号機滞留水貯蔵量
- ・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量
- ・除染装置停止中のため，廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約1,090 m³	-※7
2号機	約1,310 m³	-※7
3号機	約1,950 m³	-※7
4号機	約10 m³	-※7
合 計	約4,360 m³	

(合計):-90[m3/4週]，(合計):-10[m3/週]

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約4,050 m³	T.P.-940
高温焼却炉建屋	約2,240 m³	T.P.-393
合 計	約6,290 m³	

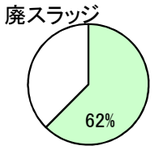
(合計):-1070[m3/4週](合計):-50[m3/週]

	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	595 m³	1,200 m³
SPT(B)	732 m³	3,100 m³

(合計):-1425[m3/4週](合計):-128[m3/週]

④廃棄物発生量

廃スラッジ



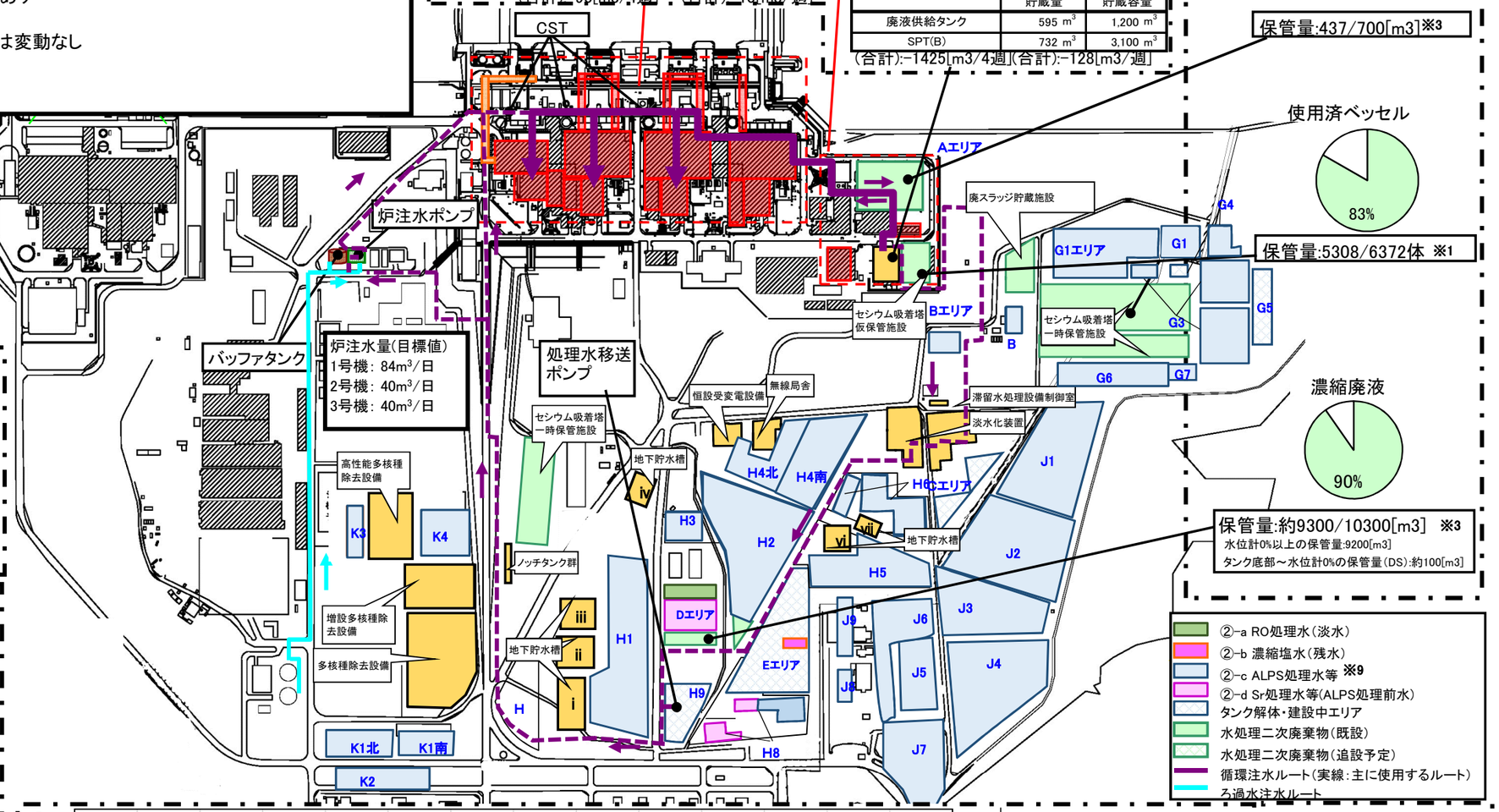
保管量:437/700[m3]※3

使用済ベッセル

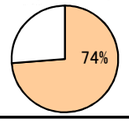
保管量:5308/6372体 ※1

濃縮廃液

保管量:約9300/10300[m3] ※3
水位計0%以上の保管量:9200[m3]
タンク底部～水位計0%の保管量(DS):約100[m3]



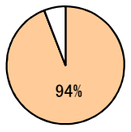
Fエリアタンク



水量:13711/18600[m3]※2,3
-371[m3/4週]/±0[m3/4週]
-278[m3/週]/±0[m3/週]

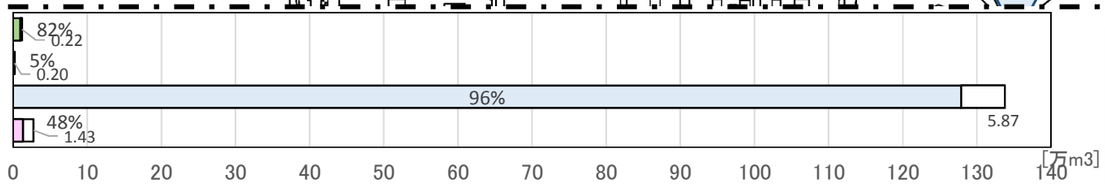
③5，6号機タンク貯蔵量

タンク総容量



水量:約1315886/1397900[m3]※2,3
+3693[m3/4週]/±0[m3/4週]
+163[m3/週]/±0[m3/週]

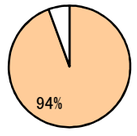
タンク貯蔵量合計（②＋③）



②1～4号機タンク貯蔵量

②-a RO処理水（淡水）	②-b 濃縮塩水（残水）	②-c ALPS処理水等 ※9	②-d Sr処理水等（ALPS処理前水）
水量:約9812/12000[m3] ※2,3	水量:約100/2100[m3] ※2,3	水量:約1278921/1337600[m3] ※2,3,4,6	水量:約13344/27600[m3] ※2,3
水位計0%以上の水量:9712[m3]	水位計0%以上の水量:約0[m3]	水位計0%以上の水量:1276621[m3]	水位計0%以上の水量:13144[m3]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約100[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約100[m3]	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約2300[m3] ※8	タンク底部～水位計0%の水量(DS):約200[m3] ※8
+1168[m3/4週]/±0[m3/4週] -102[m3/週]/±0[m3/週]	-44[m3/4週]/±0[m3/4週] ±0[m3/週]/±0[m3/週]	+1218[m3/4週]/±0[m3/4週] +476[m3/週]/±0[m3/週]	+1722[m3/4週]/±0[m3/4週] +67[m3/週]/±0[m3/週]

1～4号機タンク総容量



水量:約1302175/1379300[m3] ※2,3,4
水位計0%以上の水量:1299481[m3]
タンク底部～水位計0%の水量(DS):約2694[m3]
+4064[m3/4週]/±0[m3/4週]
+441[m3/週]/±0[m3/週]

水量:約1314152[m3] ※5
+1479[m3/4週]
+253[m3/週]

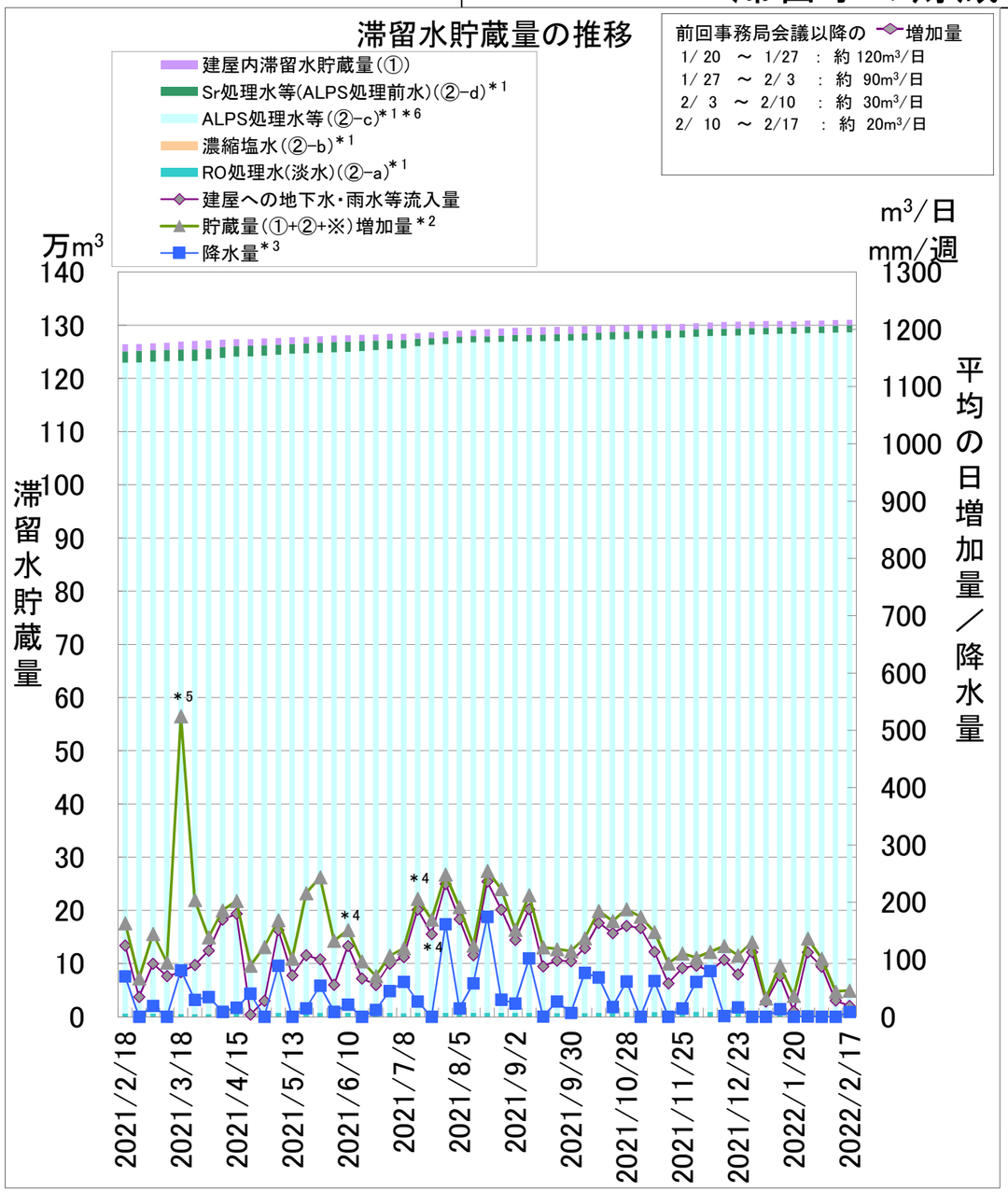
建屋内貯蔵量
＋
1～4号機タンク貯蔵量
(①＋②)

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセル含む
※2 装置稼動中につき水位が静定しないため参考扱い
※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記。端数処理上、水量の総和と異なる場合がある)
※4 多核種除去設備等(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
※5 ウェルポイント・地下水ドレン(約40m³/週)、サイトバンカ建屋からプロセス主建屋への移送量(約50m³/週)、その他移送量(約70m³/週)の合計(約160m³/週)を含む
(端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある)
※6 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む
※7 1～4号機T/Bは水抜きが完了しているため、水位を「-」表記
※8 フランジ型タンクに貯蔵するSr処理水の処理完了(2018/11/17)
フランジ型タンクに貯蔵する多核種除去設備等処理済水の移送完了(2019/3/27)。引き続き、残水処理を進める観点から、以後、フランジ型タンクのタンク底部～水位計0%の水量(DS)は水位計0%以上の水量に含める
※9 多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)

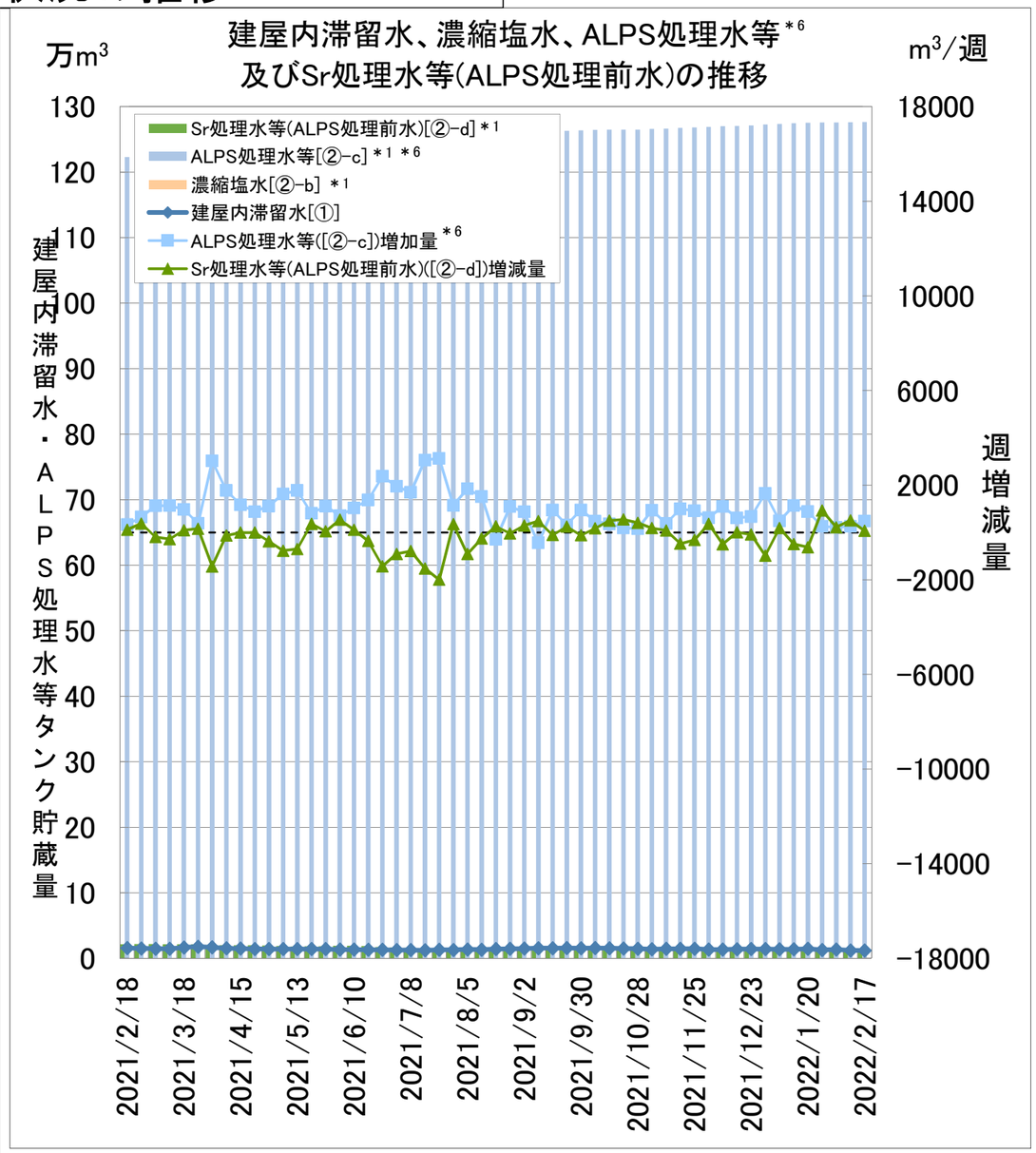
東京電力ホールディングス株式会社
2022年2月24日

滞留水の貯蔵状況の推移

滞留水貯蔵量の推移



建屋内滞留水、濃縮塩水、ALPS処理水等*6及びSr処理水等(ALPS処理前水)の推移



①：建屋内滞留水貯蔵量（1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B)）
②：1～4号機タンク貯蔵量（〔②-aRO処理水(淡水)〕＋〔②-b濃縮塩水〕＋〔②-cALPS処理水等*6〕＋〔②-dSr処理水等(ALPS処理前水)〕）
※：タンク底部から水位計0%までの水量（DS）

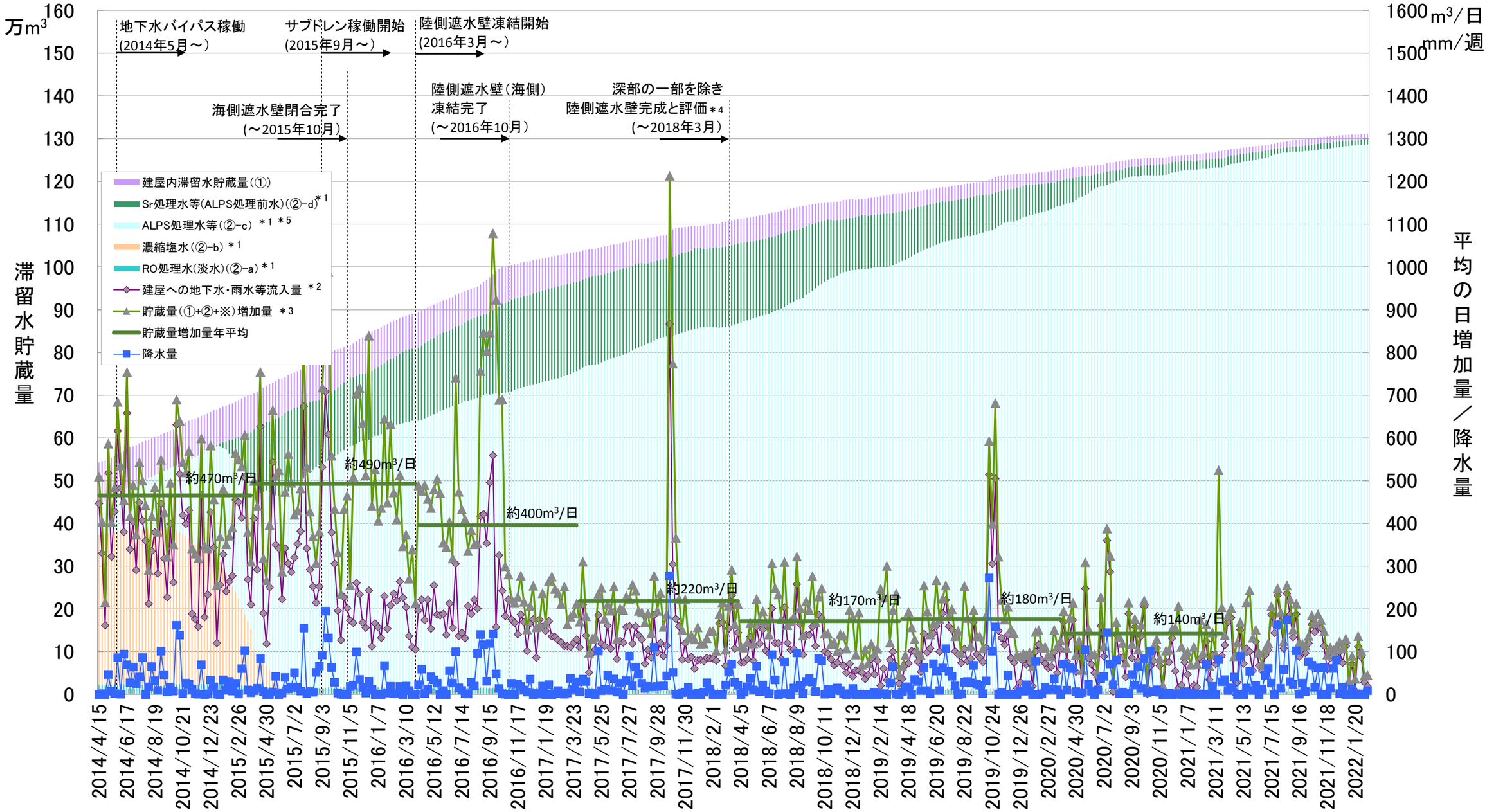
＊1：水位計0%以上の水量
＊2：貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)
〔(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)
＊3：2018/12/13より浪江地点の降水量から1F構内の降水量に変更。
＊4：建屋内滞留水の水位低下の影響で、評価上、建屋への地下水・雨水等流入量が一時的に変動したものと推定。(2021/.6/3～6/10,7/8～7/22)
＊5：2021/3/18廃炉作業に伴う建屋への移送により貯蔵量が増加。
（移送量の主な内訳は①タンク堰内の滞留水（物揚場排水路から移送した水）をプロセス主建屋へ移送：約390m3/日、②タンク堰内の滞留水（物揚場排水路から移送した水）を高温焼却建屋へ移送：約10m3/日、
③3号増設FSTRから3号廃棄物処理建屋へ移送：10m3/日、他）
＊6：多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)

多核種除去設備等の稼働状況

設備	期間処理水[注1,4]		定格処理量
	[m3/週][注2]	[m3/4週]	[m3/日]
既設多核種除去設備	0	0	750以上
増設多核種除去設備	286	941	750以上
高性能多核種除去設備	189	386	500以上
高性能　検証試験装置	0	0	50
合計	475	1,327	

注1）処理量は全て出口積算流量計から算出しており、薬液注入量を含む。
注2）処理量の内訳はRO濃縮塩水処理量0m3、Sr処理水処理量439m3、処理水処理量0m3、薬液注入量他36m3[注3]。
注3）処理水を用いて粉体を溶かし生成している薬液量（9m3）を含む。
注4）処理水増加量を基にした算出方法から、設備の出口積算流量計を基にした算出方法に、2020年11月26日より見直し。

滞留水の貯蔵状況の推移（長期グラフ）



①：建屋内滞留水貯蔵量（1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(B)）

②：1～4号機タンク貯蔵量

（〔②-aRO処理水(淡水)〕＋〔②-b濃縮塩水〕＋〔②-cALPS処理水等〕＊5＋〔②-dSr処理水等(ALPS処理前水)〕）

※：タンク底部から水位計0%までの水量（DS）

＊1：水位計0%以上の水量

＊2：貯蔵量増加量の精度向上として、2017/2/9より算出方法を以下の通り見直し。(2018/3/1見直し実施)

〔(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)

＊3：2018/12/6まで浪江地点の降水量を使用していたが、2018/12/13より1F構内の降水量に変更

＊4：深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了

＊5：多核種除去設備等の処理水の表記について、国のALPS処理水の定義変更に伴い、表記を見直し(2021/4/27)